

# 図書館政策フォーラム「図書館はどう使えるか～明日の生きる力と図書館～」

## “自殺予防対策のために図書館に何が出来るか・関係者が図書館をどう使えるか考える”



宮崎県立図書館（宮崎県宮崎市） <http://www.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>

### 基本データ（数値はH25年現在）

住所	宮崎市船塚3-210-1
電話番号	0985-29-2956
人口（図書館が所在する市町村）	40万人
職員数（うち有資格者数）	45人（16人）
蔵書数	641,581冊
登録者数	71,022人
年間貸出冊数（H24）	385,573冊

### 目的・趣旨

地域の課題解決のために今後果たすべき公共図書館の役割を県民とともに考える会を開催する。今回は、県の重要課題の一つである自殺予防を取り上げ、図書館として何が出来るか、図書館をどう使えるかを考える。

### 取組概要

図書館政策フォーラム（H24年12月15日県立図書館にて実施）

- 基調講演
  - ・テーマ「生きる力を育む図書館」
  - ・講師 糸賀雅児氏（慶應義塾大学文学部教授）
- トークセッション
  - ・テーマ「生きる力を図書館で」
  - ・コーディネーター 糸賀雅児氏
  - ・パネリスト
    - 河野俊嗣氏（宮崎県知事）
    - 工藤智徳氏（NPO法人国際ビフレンダーズ宮崎自殺防止センター所長）
    - 小林順一氏（NPO法人精神障害者自立支援ネットワーク・宮崎もやいの会代表理事）
    - 森 一代氏（木城えほんの郷事務局長）
    - 横山 茂氏（よこやま司法行政事務所）

### 特徴

- 自殺には健康問題、経済問題など様々な要因がある。図書館には網羅的な情報があり、気軽に利用できる施設である。
- 県政の重点施策の一つである自殺予防のために、県立図書館はじめ、県内公共図書館がどう活用できるのかについて、図書館関係者、行政担当者、NPOほか一般県民と共に考える場として本フォーラムを開催した。

〈パネリストによる図書館の役割についての意見〉

- コーナーの設置などによる情報提供
- 他の施設に比べ入館しやすいという利点を活かした自死遺族の集いなどの開催
- 人的ネットワークの拠点、ソーシャル・キャピタルとしての可能性

〈フォーラムに至るまでの県立図書館の取組〉

- H9年度（本県自殺者数が300人を越える（23年度まで））
- H16年度 行政支援・ビジネス支援サービス開始
- H18年度（国の自殺対策基本法制定自殺死亡率が全国で5番目）自殺予防関連資料収集開始/相談窓口を含む自殺予防に関するパスファインダー図書館HP掲載/法律相談会（共催）開始
- H19年度（自殺死亡率が全国で2番目）担当部局と共催による自殺予防関連展示/研修会等でのブックリスト配布開始
- H20年度（「宮崎県自殺対策行動計画」策定）健康情報コーナー設置（自殺予防関連パンフレット配布開始）/健康相談会（共催）開始
- H24年度（自殺死亡率が全国で6番目）ワンストップ相談会（共催）開始

### 取組の成果と今後について

・参加者は119名。図書館・室42名、行政（県市町村）33名、図書館・福祉等関係者23名

- ・参加者の声…「図書館の役割は資料の提供だけではなく、さまざまな支援を行うことでそこに生活する人が豊かになることだと感じた。」「敷居の低さやどんな人にも居場所となるといった図書館の特性をもっと前面に出し活かしていこうと思った。」「図書館の役割を再認識することができました。」等
- ・フォーラムをきっかけに、県立図書館内で今年度の7月から毎月第2土曜日にランタンの集い（自死遺族の集い）の開催や、県内図書館からの要望をうけ担当部局より関連パンフレットの配布などを行っている。